

小松地区タウンミーティング開催報告

日 時	令和2年9月17日（木） 19：30～21：00	
場 所	小松公民館1階大会議室	
参加者	<p>【地域側：12人】 連合自治会小松支部長、連合自治会小松副支部長、新宮藤木自治会長、藍刈自治会長、立志隊隊長、立志隊副隊長、小松地区婦人会副会長、まちでこ代表、元消防団小松分団長、小松中PTAおやじ部、元小松小学校長、小松藩主墓所を守る会会長</p> <p>【行政側：4人】 市長、小松公民館長、政策企画課長、公共施設マネジメント推進係長</p>	
次 第	<p>1.開会 2.連合自治会小松支部長 挨拶 3.市長挨拶・総合計画のポイントと事業説明…別添資料① 4.テーマに関する現状等説明の後、意見交換：テーマ「公共施設のあり方」…別添資料② 5.まとめ・閉会</p>	
概 要		
自治会 小松支部長 挨拶	<p>この会で西条市が抱える課題を地域の皆さんと市が共有し、共に考え話し合うことで、より魅力的で住みやすい愛着の持てるまちづくりに繋がるだろう。 この先10年・20年後の小松地区を想って、ざっくばらんなご意見をいただきたい。</p>	
市 長 事業説明	<ul style="list-style-type: none"> ・西条市は今後30年間で約3万人の人口減少が予測されている。 （約108,000人：2015年実績 → 約78,000人：2045年時点の人口推計値） ・上記3万人の内、多くが15歳～64歳→働く世代がいなくなることで、地域や産業の課題増が予想される。 ・「人口減少・少子高齢化への対応」を最重要課題とした総合計画後期基本計画を策定。 2045年時点の人口推計値 約85,000人を目指す！ ・優先目標を3つ設定。A)健康寿命の延伸、B)働きがいの創出・経済活力の維持、C)経営感覚のある行財政運営の実践。 ・市民・事業者の皆さん、行政がともに力を合わせて、将来世代にバトンタッチできる「持続可能な西条市」を実現しよう。 	
テーマに 関する 現状等	<ul style="list-style-type: none"> ・西条市の公共施設は、同規模自治体の1.6倍(延床面積)あり、その半分以上が老朽化(築30年超)している。 ・公共施設マネジメントとは、施設の安全管理と財源確保を両立するための適正配置を実現することである。 ・人口減少・少子高齢化を踏まえ、今後の行政サービスにおいて、削減余地があるのは公共施設のみである。 ・建物は縮減しても機能やサービスの向上を図る「縮充」の発想で施設のあり方を見直すことが大切である。 ・市民のみなさんと情報を共有し、思いを共感し、新しい公共施設のかたちを考える共創を目指していきたい。 	
参加者の発言要旨		市の発言要旨
<p><公共施設の縮充について> 施設の維持管理には多くの経費がかかり、このままの状態を維持し続けると、将来世代にまで負担を残すことになる。 早急に見直しを行い、施設の数削減すべきである。</p>		<p>公共施設の維持管理経費は、利用者負担だけでなく税金で補填している。 例えば、市内に2つあるプールの場合、2ヶ月の利用で年間約6,500万円の経費を要しているが、その1割は使用料で賄い、9割は税金で負担している。 低負担高福祉の裏には、このような現実があることを知っていただきたい。</p>
<p>施設のあり方について、利用者の負担割合という視点ではなく、必要度合で考えたほうがよいのではないか。 プールは「あったらいいな」という施設なのか、「なくてはならない」施設なのかという視点で考える方がわかりやすいのではないか。</p>		<p>大事なものはプールというハコモノではなく、子ども達が水に親しみ遊ぶという機能だと思う。 従来のプール以外にも海上プールや仮設プールなど、同じ費用をかけるとしても異なる水遊びの体験できるような発想と工夫が必要ではないか。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨
<p><公共施設の「集約化」「複合化」について> 今後の人口減や財政状況を踏まえて、「公共施設の廃止」という選択肢もあり得ることを市民一人ひとりが認識できるようになったらいいと思う。 小松地区では、「小松中央公園と周辺を考える会」が発足した。この会は、行政に対し注文をつけるのが目的ではなく、みんなをよくしていこう、考えようという会である。施設の利用向上にも繋がると思う。 施設の再編にあたり、今何を残し、何を直し、何を優先すべきか等、地元住民の意見は役に立つのではないか。</p>	<p>従来は、行政がサービスを提供する側、市民が受ける側という固定化された関係性であったが、これからは市民もサービスを提供する側になることがあってもいいと思う。「ひと・夢・未来創造拠点複合施設（仮称）」整備計画を1つの例として、皆さんの自発的な行動に繋がる施設にしていきたい。 また、施設ができた当時の人々の思いも大事にしつつ、将来の市民からも評価されるような判断をしていかなければならない(フューチャーデザイン)。 そのためには、根拠となるデータや必要性を丁寧に説明し、この先数十年を見据えつつ、地域と連携しながら進めていきたい。</p>
<p><公共施設の安全管理について> 震災時に老朽化した施設で尊い命が失われることがあってはならない。 市には公共施設が多いことを知ったが、人口減少もあり、集約化・複合化は避けて通れないと思う。 安全性と財源を確保をしながら進めていくことが必要なだろう。</p>	<p>市民の生命と財産を守るのは、我々行政の役割だと思っており、施設を長く大切に使うためにも、予防保全の視点が大事である。 「施設を安全に維持すること」ができない場合は、施設を休止するという判断もあり得る。</p>
<p><避難所について> 公共施設がなくなることで避難所が減ることがあってはならない。 沖縄ではホテルを避難所にしたという事例を聞いたが、民間企業がどこまでお手伝いできるかということも含め、みんなが危機感を持ってまちづくりができるように、前もって方向性を提示し進めるといいのではないか。</p>	<p>まちづくりの方向性を提示するにあたり、道筋が立てられるかどうかは非常に大事な視点である。 防災面でも、感染症対策をした避難所が必要であり、災害時に高齢者や妊婦の方を受け入れてもらえるよう、ホテルと交渉を行っている。</p>
<p><公共施設の「複合化」について> 高齢者福祉施設と幼稚園や保育所の複合施設では、日常的に多世代交流が生まれることで、人への接し方を学ぶことができる等、よいことがたくさんあるという事例がある。このような施設が「なくてはならない」ものではないかと思う。 婦人会活動において、子育て交流センター「ここてらす こまつ」に来館している親子達と触れ合う機会を得た。 今後も子どもと高齢者が交流できる場・複合施設があればいいなと思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、複合化のメリットとして、多世代交流や地域活性化に繋がる点が挙げられる。 これまでは、高齢者施設、児童施設等、利用対象者を規定していたり、教育施設、スポーツ施設等、利用目的を個別に定めていたが、そのような施設が複合化することにより、世代や立場を超えた交流が生まれると考える。</p>
<p><学校施設の利用について> 地域の人が学校施設を利用しようとしているが、学校側の体制が間に合わない等、地域と学校のルールが違うので、学校に入りにくい状況である。 また、施設修繕が必要な場合、学校教育に関する予算とは別の予算を使うシステムにするべきだ。</p>	<p>学校教育と社会教育の壁は、境界があったほうがいいか、崩した方がいいのか今は整理がついていない。 壁があるとしたら、壁が必要な場面とそうではない場面があるので、しっかり話していかなくてはならない。</p>
<p><放課後児童クラブについて> 実施場所を小学校に移すことに関して、先生の負担増とならないように学校教育とはきっちりと分けて、ルールを明確にすべきだ。</p>	<p>厚生労働省（放課後児童クラブ）と文部科学省（学校）の縦割り行政による壁はあるが、市としては、可能であれば放課後児童クラブを学校施設に移していきたい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨
<p><総合支所、公民館について> 公共施設の再編について、やっと進むのかという思いである。 総合支所については、各校区の公民館がその役目を果たすことができれば、不要だと思う。 今後、「本当に必要なもの」か、「あればよいもの」かを仕分けていけばよい。 形態が変わっても、いろいろなことができるのではないかと。</p>	<p>総合支所については、合併後、今日まで市民の身近な窓口として維持してきた。 しかし、窓口サービスを提供するための手法はいろいろと考えられる。市民に身近な窓口サービスを維持することができるよう、総合支所機能の見直しを行っていききたい。</p>
<p>公民館に行政の出張窓口的な機能を追加し、支所まで行かなくても身近に行政サービスが受けられるようにするのが良い。</p>	
<p>公民館は必要だということだが、本当に必要な施設なのか。 今日、初めて公民館へ来たが、利用目的・その意義を知らない。市の説明不足ではないか。</p>	<p>公民館は、仲間同士が「集い、学ぶ」社会教育の場であるとともに、災害時の避難場所として、地域の防災拠点でもある。 これからは、地域活動の拠点としての機能を強化し、地域住民の心の拠りどころ・何か困り事があれば駆け込める場所にしたいと考えている。情報発信を行い、多くの人に利用していただきたい。</p>
<p>まとめ</p>	<p><市長> ざっくばらんに意見が出るという雰囲気こそがまちづくりだと思っており、その点で小松は非常にいい地区だと思っている。言いにくいことも言いやすいことも色々あるが、こうやって膝を詰めて活発に話し合いながら、いいまちを作っていきたい。</p> <p><連合自治会小松支部長> 本日の意見交換の内容を各団体に持ち帰り、意見を深めていただきたい。また、今回のテーマに限らず、小松の未来をより良いものにしていくために、住民みんなで話し合い、動き出すことが重要である。自治会としても、市と連携しながら皆さんの取り組みを後押しできるように励んでいきたい。</p>

<当日の様子>

